

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(1階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和4年12月8日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍のため活動制限が余儀なくされる現状があるが、発想の転換を柔軟に行い、取り組んでいる。「つばさ周辺の名所を見つけよう!!」と入居者様と目的地を選定し散歩に出掛けたり、公園に紅葉した楓やイチヨウの葉を探しに行き、デッサンの題材とするなど、目的のある外出を楽しんでいる。行事についても、小学生のダンス披露や大道芸を屋外で楽しみ、社会とのつながりを大切にしている。敬老会ではご家族からメッセージをいただき、お祝いの色紙にして居室に飾り、ご家族との絆も大切にしている。また日々の生活に於いては、利用者様の可能性を見つけ、日記・学習ドリル・語学の勉強など個々に応じた様々な取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の行事に加え、職員のアイデアを結集させた出し物に大笑いした秋祭り、地域の魅力を再発見する散歩やお花見、大漁旗バスハイクなど、事業所便りの紙面は数々の名シーンと利用者の笑顔で彩られ、その豊富さに運営推進会議メンバーからも称賛の言葉が絶えません。さらに、植物に詳しい利用者を師と仰いで土作りから管理まで毎月の園芸活動にその知識を活かし、また、スケッチブックに描かれた絵の素晴らしさからデッサンする力を引き出すなど、ユマニチュードのコミュニケーション技法とセンター方式を活用した丁寧なアセスメントで、利用者本人の強みとポジティブな特性に着目した支援が光っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「笑顔あふれる和みの家～共に安心し、思いに寄り添う安らぎの場～」。コロナ禍でご家族との面会や外出が難しい状況にあるが、入居者とご家族の絆を大切に、入居者がご家族にいつも温かく見守られていることを実感できるよう共に取り組んでいる。	理念に基づいた部署目標と職員個人目標を設定し、年2回の面談でその達成度を確認しています。コロナ禍で家族と楽しむ行事は実施できないものの、介護計画に係る半年ごとのカンファレンスには必ず家族が出席し、離れていても本人を支える大切なチームメンバーとなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でボランティアの受け入れが難しい状況にある。この現状に諦めることなく、天気の良い日や休日には、公園や公共施設に出掛け、地域とのつながりを大切にしている。また70名程の小学生の皆さんが来所し、屋外でダンスを披露して下さった。	事業所周辺の公園や施設の散策で地域を巡り、コロナ禍でも挨拶や会話を大事にしています。今年近隣の小学校から4年生が総勢70名で訪れ、駐車場でダンス披露では児童たちの熱心な踊りに利用者も手拍子で応じ、一緒に踊るなど久しぶりの交流に盛り上がりを見せています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練には、地域の交番から警察官が参加して下さり、実際の避難の様子を見ていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い、助言をいただいている。コロナ禍で書面開催とすることもあがるが、アンケート形式として、委員の皆様の見解をいただいている。	書面開催時は、予めレジュメと活動の内容がわかる事業所通信を配付してアンケートを取り、結果を取りまとめて議事録を作成しています。コロナ禍でも趣向を凝らした豊富な行事に称賛の声が寄せられ、地域代表から情報提供される地元の見どころは外出企画に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、メールや実地指導を通し、情報や助言を頂いている。グループホーム連絡会や焼津市介護相談員派遣事業は、コロナ禍のため、現在開催や受け入れを中止している。	運営推進会議には市地域包括ケア推進課、地域包括支援センター職員の出席があり、書面開催時のアンケートでも都度丁寧な助言があることを議事録から視認しました。実地指導では指摘事項もなく、事業所運営の透明性に努め積極的に協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会・身体拘束廃止適正化勉強会を開催している。また対象者を決め、事例研究を行い、身体拘束に至る前段階でのケアのあり方について学び、実践している。	法人内の事業所が合同でおこなう委員会では「施設内の身体拘束適正化に向けての現状把握及び改善について」「施設内ケアの見直しについて」「研修会について」をテーマに、それぞれが抱える課題の解決に向けた話し合いがなされ、管理者は全体会議でその内容を周知しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止勉強会を開催し、学びを深めている。また法人全体で、虐待防止委員会を開催し、不適切ケア防止の取り組みや虐待の芽チェックリスト等を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	静岡県社会福祉協議会よりいただいた成年後見人制度についてのDVDを使用している勉強会を開催し、学びを深めている。成年後見制度を利用または利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。コロナ禍により家族参加の行事を通してのアンケートや要望の聞き取りは行っていないが、家族への電話連絡やカンファレンス開催時、面会等の来所時には、意見・要望等の確認を行っている。	利用者、利用者家族が毎回運営推進会議メンバーとして参加し、外部者へ意見、要望を表せる機会を確保しています。面会制限が続く中、月に一度の電話による近況報告の他、画像豊富な月便りと行事便りの2本立てで暮らしの様子を伝え、ベストショットの写真も添えて送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを大切に、職員が意見や提案を発言しやすい環境を作っている。また全体会開催前には、全職員にアンケートを取り、職員の率直な意見に耳を傾け、業務改善につなげている。	一日の終わりの就寝までの時間帯が穏やかなものになるよう、好みの雑誌や興味ある種類を揃えたり、さらに職員配置を厚くして心安らぎ満たされた時間となるよう計らい、また、少しでも外出機会を増やせるよう企画を練ったりと職員発信のアイデアが活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各職種に応じた評価表を用いて、職員が自己評価を実施し、上司が個々の職員の成果や努力に対し、評価している。日頃よりサンクスカードを通し、お互いを評価し合うことで、個々の職員のモチベーション向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はWebや複数回に分け少人数で開催している。認知症介護実践者研修や外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅の介護支援専門員と施設の介護支援専門員との壁を取り払おうと、zoomにて交流会を開催。焼津市内グループホーム連絡会は、コロナ禍のため現在、開催を中止している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて利用者様に対するかかわり方のまなざしや態度の振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご家族を招いてのイベントの開催は難しい状況だが、思い出の写真やメッセージ等ご家族とともにケアを展開している。特にカンファレンス開催時には、ご家族にもケアに参加していただけるようざっくばらんに行う会話の中から、方向性を見つけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況によりやむを得ず、面会を中止することもあるが、短時間であっても可能な限り、面会していただけるよう努めている。ご家族だけでなく、隣の特養に知り合いが利用時やご近所の方が面会に来て下さることもあり、楽しい時間を過ごされている。	感染者数の状況により面会はオンラインや、事前予約にて人数・時間制限、パーティションを設けた談話コーナー、屋外等工夫し、可能な限りその機会を作っています。愛犬を連れた家族と外で会話したり、談話コーナーで隣接するショートステイ利用者と再会を喜ぶ姿があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。事例研究を通し、入居者が孤立せず、生活できるよう取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養のためやむを得ず退所された入居者やご家族より、「またつばさで生活したい」というご希望をいただくことが多くある。必要に応じて、経過のフォローを行っている。また、本人以外の家族の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2、心身の情報(私の姿と気持ちシート)を利用して本人や家族の意向を確認しながら本人の立場で記入し、ケアカンファに結びつけ本人本位のケアプランを作成している。	ユマニチュードのコミュニケーション技法とセンター方式を活用した丁寧なアセスメントで思いや意向を捉え、運営推進会議で報告される「個別ケアの取り組み」からは、利用者本人の強みやポジティブな特性に着目した支援がおこなわれていることが読み取れます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から生活歴や趣味、生活環境を聞き取り、本人がどんな暮らし方をしてきたかを把握している。暮らしの歴史の中から、本人が安心して生き生きと暮らすてがかりを見つけ馴染みのある暮らしが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式C-1-1、D-1.2.3を用いて24時間の生活の流れや本人ができそうなことを見つける機会を作り、力を引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施。介護計画が計画通り実施されているか、本人らしい生活を送るために課題はないか見直しを行っている。また、半年に1度本人、家族、介護職、看護師、管理者、計画作成者と会議を開催。出席者の意見を反映し、チームで介護計画を作成している。	起床や就寝時間、役割や楽しみなどその人らしい暮らし方を尊重し、利用者本人の思いを叶えるために家族を含めた多職種チームが支援すべきことを明確に示す介護計画となっています。定期的なカンファレンスに加えインシデント発生時には職員を招集して計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに情報を整理しやすいSOAPの書き方で記録を行っている。出勤時には必ずカルテを確認し客観的な事実、根拠を基に実践した結果を把握している。情報を共有する中で、新たな課題があればその場で話し合いを行い、介護計画の見直しに役立て特記事項として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど入居者やご家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て、準備を行う。また受診介助など、ご家族だけの対応が難しい場合には、状況に応じて支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の名所を見つけよう!!と散歩に出掛けたり水族館やコスモスバスハイクなどこの地域ならではの良さや、季節を感じ・楽しめる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は17名が協力医の往診を利用している(残り1名は協力医に受診)。入居者1人に対し、月2回往診あり。往診時対応表に基づき、看護師が日頃の様子を主治医に報告している。	体調経過を「往診時対応表」に記載して医師への情報提供とし、訪問診療には看護師が立ち会っています。往診結果と処方された薬事情報は服薬一覧表及び特記事項に記入して共有するとともに、看護師より即日家族へ電話で報告をおこなっており、安心の体制が敷かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成、薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても、看護職員から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は直ぐに担当の相談員や病棟看護師を確認し入院時情報提供書を作成し、病院側から許可が出れば手渡して顔が見える関係を築いている。コロナで許可が出ない場合はFAX、電話にて情報交換を行い、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があれば随時家族に連絡を行い、カンファレンスを行い、家族の意向を確認しながら事業所でできることを説明し同意を得ている。また、半年に1度行うカンファレンスでは都度、緊急時対応確認書にて緊急時や終末期のあり方を確認しチームで情報を共有している。	契約時には看取りをおこなっていないことを伝えつつ、重度化が予想される場合にはあらかじめ本人や家族の望む終末期のあり方や、家族の協力体制を含め事業所でできる事を話し合い、最善の方法を探りながら、その都度変化する家族の想いにも寄り添っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。つばさ方式の組手にて特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。風水害時の対応についてもマニュアルを作成。全職員に専用アプリにて、現在の状況や指示を伝達。専用アプリは災害時だけでなく、研修の動画配信など、普段から活用している。	実践に即した訓練に向けシミュレーションプランを作成し、実情に合わせ内容を再編しています。浸水対策には重要な書類や医薬品を2階へ移し、県のサイボスレーダーを活用した事前把握と危険予知、土嚢やシートの設置方法、出退勤時の道路状況の見極め等、余念がありません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、身体拘束廃止の勉強会において自尊心、羞恥心、プライバシーの確保に配慮したケアの大切さを周知している。また、ユマニチュードの4つの柱、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を念頭において人間らしさを尊重した声掛けや対応を行っている。	デリケートな部分としての自覚をもってさりげなくトイレへ誘い、他の利用者に気づかれないうちに済ませるよう配慮しています。何気なく発してしまう「座ってて」「待ってて」の言葉を省みて、「困っているのはその人本人」であることを再認識し業務優先にならないよう留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向として、その日着たい服や羽織物はどうか、飲みたい飲み物、やりたい活動等様々な場面で本人の思いや自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、静養の時間等、個々の意向を確認しながら本人のペースで過ごせるようにしている。生活歴からその人がどんな生活をして過ごしていたかを知り、常に本人の立場で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じてカットやカラーを数日に分け、ゆったりと行っている。理美容後には、より綺麗になった姿を写真に残している。入浴前に職員と一緒に着たい服を選びお洒落を楽しむようにしている。整容や入浴後手持ちの化粧品や整髪剤等が利用できる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家で使用していた食器や自分で作った陶器を持ってきてもらい馴染みのある器で食事を摂るようにしている。週1回、季節のメニュー(時節食材・誕生日祝い)の提供やドリンクバイキングを開催。また、焼き立てパンの提供や、おやつ作りを行い、楽しみのある食事作りを行っている。	毎月のグループホーム便りには旬の食材を使って職員が考案した「季節のメニュー」が紹介される他、月1回ホームベーカリーでの焼き立てパンの香りがフロアに拡がり、注文に応じるドリンクバイキングや駄菓子バイキング、和菓子バイキングなど、数えきれない食の楽しみが満載です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、BMIを計算して評価を行っている。体重変動があれば看護師、医師に報告し医療と連携し摂取量、栄養バランスを検討。毎日、食事摂取量、水分量を記録し確保されているか確認している。また、看護師と連携して本人の咀嚼、嚥下に合った食事形態を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自分でやっていた後、口腔内を確認し不足部分があれば補い、口腔内に食渣が残らないように注意している。自分で出来ない場合は歯ブラシ、クルーナブラシやスポンジブラシを使用し、職員が行い、清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し個々の排泄パターンを把握。本人に合った時間の声掛けや使用パットを検討。リハパンから布パンツ、パットからナプキンへ移行。なるべく下剤を使用せず自然排便できるよう食事、運動、腹部マッサージ等を実施。朝食後はゆっくりトイレに座る環境を提供している。	オムツ使用で入居した利用者も、昼夜のトイレ誘導と排泄チェック表でパターンをつかみ、失敗のないことがわかった例や、歩行状態の安定によりトイレでの排泄がスムーズになった利用者もあり、どのような声かけなら気持ちよく応じてもらえるかも共有して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を多く取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活発化させ自然排便を促している。排便状況の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュース(豆乳・白桃・バナナ)を作り、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室へ行くことに抵抗を感じる方については、一緒に中庭を散歩してから浴室にお誘いするなど、一人ひとりが入浴を楽しめるよう工夫している。個々の身体の動きや自分の力で入浴したいという気持ちに配慮し、浴室内のシャワー箇所を2ヶ所から3ヶ所に増設し、対応している。	週3回の入浴を目安としていますが、毎日入りたい人や順番にこだわる人、何よりの楽しみとして待つ人等、その人が気持ち良く入浴できる時間帯を聞いて実施しています。菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使った楽しみの演出でリラックスして会話も弾み、歌が飛び出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中に様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や、灯りの調整など個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行っている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、その人が好む話や役割となっていたこと、楽しみのあることを提供し生きがいを持って過ごせるようにしている。天気の良い日は散歩に行き五感を刺激して、季節を感じ、気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員間で協力し合いながら、入居者の希望に応じて外出している。水族館にバスハイクに出掛けながら、おやつにピザを買って帰ってくることもある。公園に紅葉した楓やイチョウの葉を見つけに行き、施設に戻ってから、デッサンの題材にするなど、目的ある外出を楽しんでいる。	気候の良い時季には「つばさ周辺の名所を見つけよう！」とコースや目的地を変え積極的に散歩に出かけています。年間計画に位置付けられた恒例のバスハイクでは木屋川の桜、水産技術研究所、小川港の大漁旗など、地域と季節を体感できる場所に出かけて満喫しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。どの入居者にも楽しんでもらえるよう食費より出費し、おやつを買いに出掛けることもある。(現在はコロナ禍のため開催が難しい)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。ご家族から電話があった際には、お話ができるよう働きかけをしている。ご家族からいただいたお手紙は居室に飾り、読み返し楽しめるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、個々の入居者の動線に配慮している。加湿空気清浄機の設置。毎月、入居者と一緒に壁画を作成・掲示。園芸活動で作成したフラワーアレンジメントや生花を生け、季節を感じていただいている。生花は毎日、入居者様が水替えや手入れをしてくれている。	月ごとに担当職員が利用者と協同制作にあたる壁面は季節感にあふれ、植物図鑑を編集した利用者を先生として毎月おこなう園芸活動では金魚草、向日葵、コスモス、百日草など事業所を数々の花で囲み、その鑑賞とお茶会、フラワーアレンジメントと潤いある生活に導いています。	種や苗の配付等、園芸活動を通じた地域交流につながるとなおります。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり掛けのソファを3台設置。また個々の時間に合わせて、足を挙上し過ごすことができるよう配慮している。本棚には園芸・旅行・週刊誌・韓流雑誌などを置き、個々の好みに合わせて提供している。食事後には、外の風景を楽しみながら、日向ぼっこを楽しむ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の子供の頃のご両親との写真や、結婚されてからのご家族での写真など、これまでの人生の幸せな時間を感じられる写真を居室内に掲示している。また敬老会では、ご家族様よりメッセージをいただき、お祝いの色紙にして居室に飾ってある。	座り心地の馴染んだソファや世界中を旅した時のアルバム、趣味の陶芸で作った世界に唯一つの陶器など、訪室のたびに思い出話が聞ける大事な物が持ち込まれています。誕生日や敬老の日に贈られたメッセージカードも飾り、「大切な人」であることがうかがえる居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者様が書いてくれた「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み、食事を楽しみにしている入居者も多い。各入居者の居室前には、フォトポケットを飾り、最近の活動の思い出やご家族との写真を飾るよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(2階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和4年12月8日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍のため活動制限が余儀なくされる現状があるが、発想の転換を柔軟に行い、取り組んでいる。「つばさ周辺の名所を見つけよう!!」と入居者様と目的地を選定し散歩に出掛けたり、公園に紅葉した楓やイチョウの葉を探しに行き、デッサンの題材とするなど、目的のある外出を楽しんでいる。行事についても、小学生のダンス披露や大道芸を屋外で楽しみ、社会とのつながりを大切にしている。敬老会ではご家族からメッセージをいただき、お祝いの色紙にして居室に飾り、ご家族との絆も大切にしている。また日々の生活に於いては、利用者様の可能性を見つけ、日記・学習ドリル・語学の勉強など個々に応じた様々な取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の行事に加え、職員のアイデアを結集させた出し物に大笑いした秋祭り、地域の魅力を再発見する散歩やお花見、大漁旗バスハイクなど、事業所便りの紙面は数々の名シーンと利用者の笑顔で彩られ、その豊富さに運営推進会議メンバーからも称賛の言葉が絶えません。さらに、植物に詳しい利用者を師と仰いで土作りから管理まで毎月の園芸活動にその知識を活かし、また、スケッチブックに描かれた絵の素晴らしさからデッサンする力を引き出すなど、ユマニチュードのコミュニケーション技法とセンター方式を活用した丁寧なアセスメントで、利用者本人の強みとポジティブな特性に着目した支援が光っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「笑顔あふれる和みの家～共に安心し、思いに寄り添う安らぎの場～」。コロナ禍でご家族との面会や外出が難しい状況にあるが、入居者とご家族の絆を大切に、入居者がご家族にいつも温かく見守られていることを実感できるよう共に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でボランティアの受け入れが難しい状況にある。この現状に諦めることなく、天気の良い日や休日には、公園や公共施設に出掛け、地域とのつながりを大切にしている。また70名程の小学生の皆さんが来所し、屋外でダンスを披露して下さいました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練には、地域の交番から警察官が参加して下さい、実際の避難の様子を見ていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い、助言をいただいている。コロナ禍で書面開催とすることもありますが、アンケート形式として、委員の皆様の意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、メールや実地指導を通し、情報や助言を頂いている。グループホーム連絡会や焼津市介護相談員派遣事業は、コロナ禍のため、現在開催や受け入れを中止している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会・身体拘束廃止適正化勉強会を開催している。また対象者を決め、事例研究を行い、身体拘束に至る前段階でのケアのあり方について学び、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止勉強会を開催し、学びを深めている。また法人全体で、虐待防止委員会を開催し、不適切ケア防止の取り組みや虐待の芽チェックリスト等を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	静岡県社会福祉協議会よりいただいた成年後見人制度についてのDVDを使用しての勉強会を開催し、学びを深めている。成年後見制度を利用または利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。コロナ禍により家族参加の行事を通してのアンケートや要望の聞き取りは行えていないが、家族への電話連絡やカンファレンス開催時、面会等の来所時には、意見・要望等の確認を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを大切にし、職員が意見や提案を発言しやすい環境を作っている。また全体会開催前には、全職員にアンケートを取り、職員の率直な意見に耳を傾け、業務改善につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各職種に応じた評価表を用いて、職員が自己評価を実施し、上司が個々の職員の成果や努力に対し、評価している。日頃よりサンクスカードを通し、お互いを評価し合うことで、個々の職員のモチベーション向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はWebや複数回に分け少人数で開催している。認知症介護実践者研修や外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅の介護支援専門員と施設の介護支援専門員との壁を取り払おうと、zoomにて交流会を開催。焼津市内グループホーム連絡会は、コロナ禍のため現在、開催を中止している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて利用者様に対するかかわり方のまなざしや態度の振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご家族を招いてのイベントの開催は難しい状況だが、思い出の写真やメッセージ等ご家族とともにケアを展開している。特にカンファレンス開催時には、ご家族にもケアに参加していただけるようざっくばらんに行う会話の中から、方向性を見つけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況によりやむを得ず、面会を中止することもあるが、短時間であっても可能な限り、面会していただけるよう努めている。ご家族だけでなく、隣の特養に知り合いが利用時やご近所の方が面会に来て下さることもあり、楽しい時間を過ごされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。事例研究を通し、入居者が孤立せず、生活できるよう取り組みを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養のためやむを得ず退所された入居者やご家族より、「またつばさで生活したい」というご希望をいただくことが多くある。必要に応じて、経過のフォローを行っている。また、本人以外の家族の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2、心身の情報(私の姿と気持ちシート)を利用して本人や家族の意向を確認しながら本人の立場で記入し、ケアカンファに結びつけ本人本位のケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から生活歴や趣味、生活環境を聞き取り、本人がどんな暮らし方をしてきたかを把握している。暮らしの歴史の中から、本人が安心して生き生きと暮らすてがかりを見つけ馴染みのある暮らしが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式C-1-1、D-1.2.3を用いて24時間の生活の流れや本人ができそうなことを見つける機会を作り、力を引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施。介護計画が計画通り実施されているか、本人らしい生活を送るために課題はないか見直しを行っている。また、半年に1度本人、家族、介護職、看護師、管理者、計画作成者と会議を開催。出席者の意見を反映し、チームで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに情報を整理しやすいSOAPの書き方で記録を行っている。出勤時には必ずカルテを確認し客観的な事実、根拠を基に実践した結果を把握している。情報を共有する中で、新たな課題があればその場で話し合いを行い、介護計画の見直しに役立て特記事項として記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど入居者やご家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て、準備を行う。また受診介助など、ご家族だけの対応が難しい場合には、状況に応じて支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の名所を見つけよう!!と散歩に出掛けたり水族館やコスモスバスハイクなどこの地域ならではの良さや、季節を感じ・楽しめる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は17名が協力医の往診を利用している(残り1名は協力医に受診)。入居者1人に対し、月2回往診あり。往診時対応表に基づき、看護師が日頃の様子を主治医に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成、薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても、看護職員から介護職員へ申し送りをし、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は直ぐに担当の相談員や病棟看護師を確認し入院時情報提供書を作成し、病院側から許可が出れば手渡して顔が見える関係を築いている。コロナで許可が出ない場合はFAX、電話にて情報交換を行い、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があれば随時家族に連絡を行い、カンファレンスを行い、家族の意向を確認しながら事業所でできることを説明し同意を得ている。また、半年に1度行うカンファレンスでは都度、緊急時対応確認書にて緊急時や終末期のあり方を確認しチームで情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。つばさ方式の組手にて特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。風水害時の対応についてもマニュアルを作成。全職員に専用アプリにて、現在の状況や指示を伝達。専用アプリは災害時だけでなく、研修の動画配信など、普段から活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、身体拘束廃止の勉強会において自尊心、羞恥心、プライバシーの確保に配慮したケアの大切さを周知している。また、ユマニチュードの4つの柱、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を念頭において人間らしさを尊重した声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向として、その日着たい服や羽織物はどうか、飲みたい飲み物、やりたい活動等様々な場面で本人の思いや自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、静養の時間等、個々の意向を確認しながら本人のペースで過ごせるようにしている。生活歴からその人がどんな生活をして過ごしていたかを知り、常に本人の立場で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じてカットやカラーを数日に分け、ゆったりと行っている。理美容後には、より綺麗になった姿を写真に残している。入浴前に職員と一緒に着たい服を選びお洒落を楽しむようにしている。整容や入浴後手持ちの化粧品や整髪剤等が利用できる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家で使用していた食器や自分で作った陶器を持ってきてもらい馴染みのある器で食事を摂るようにしている。週1回、季節のメニュー(時節食材・誕生日祝い)の提供やドリンクバイキングを開催。また、焼き立てパンの提供や、おやつ作りを行い、楽しみのある食事作りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、BMIを計算して評価を行っている。体重変動があれば看護師、医師に報告し医療と連携し摂取量、栄養バランスを検討。毎日、食事摂取量、水分量を記録し確保されているか確認している。また、看護師と連携して本人の咀嚼、嚥下に合った食事形態を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自分でやっていた後、口腔内を確認し不足部分があれば補い、口腔内に食渣が残らないように注意している。自分で出来ない場合は歯ブラシ、クルーナブラシやスポンジブラシを使用し、職員が行い、清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し個々の排泄パターンを把握。本人に合った時間の声掛けや使用パットを検討。リハパンから布パンツ、パットからナプキンへ移行。なるべく下剤を使用せず自然排便できるよう食事、運動、腹部マッサージ等を実施。朝食後はゆっくりトイレに座る環境を提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を多く取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活発化させ自然排便を促している。排便状況の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュース(豆乳・白桃・バナナ)を作り、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室へ行くことに抵抗を感じる方については、一緒に中庭を散歩してから浴室にお誘いするなど、一人ひとりが入浴を楽しめるよう工夫している。個々の身体の動きや自分の力で入浴したいという気持ちに配慮し、浴室内のシャワー箇所を2ヶ所から3ヶ所に増設し、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中に様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や、灯りの調整など個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行っている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、その人が好む話や役割となっていたこと、楽しみのあることを提供し生きがいを持って過ごせるようにしている。天気の良い日は散歩に行き五感を刺激して、季節を感じ、気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で協力し合いながら、入居者の希望に応じて外出している。水族館にバスハイクに出掛けながら、おやつにピザを買って帰ってくることもある。公園に紅葉した楓やイチヨウの葉を見つけに行き、施設に戻ってから、デッサンの題材にするなど、目的ある外出を楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。どの入居者にも楽しんでもらえるよう食費より出費し、おやつを買いに出掛けることもある。(現在はコロナ禍のため開催が難しい)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。ご家族から電話があった際には、お話ができるよう働きかけをしている。ご家族からいただいたお手紙は居室に飾り、読み返しめるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、個々の入居者の動線に配慮している。加湿空気清浄機の設置。毎月、入居者と一緒に壁画を作成・掲示。園芸活動で作成したフラワーアレンジメントや生花を生け、季節を感じていただいている。生花は毎日、入居者様が水替えや手入れをしてくれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり掛けのソファを3台設置。また個々の時間に合わせて、足を挙上し過ごすことができるよう配慮している。本棚には園芸・旅行・週刊誌・韓流雑誌などを置き、個々の好みに合わせて提供している。食事後には、外の風景を楽しみながら、日向ぼっこを楽しむ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の子供の頃のご両親との写真や、結婚されてからのご家族での写真など、これまでの人生の幸せな時間を感じられる写真を居室内に掲示している。また敬老会では、ご家族様よりメッセージをいただき、お祝いの色紙にして居室に飾ってある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者様が書いてくれた「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み、食事を楽しみにしている入居者も多い。各入居者の居室前には、フォトポケットを飾り、最近の活動の思い出やご家族との写真を楽しむよう工夫している。		